

令和5年教育委員会 第8回定例会

1 日 時 令和5年8月31日(木) 13時30分開会 18時30分閉会

2 場 所 教育委員会庁舎1階 第1会議室

3 出席委員

教育長	林 秀 樹
教育委員	小 澤 倭文夫
教育委員	荒 田 純 司
教育委員	常 見 幸 司
教育委員	黒 田 仁 美

4 欠席委員 なし

5 出席職員

教育部長	鈴 木 健 介
教育部次長	野 呂 武 志
学校教育支援室長	谷 口 剛
学校教育支援室主幹 (教育課程・研修担当)	菊 野 幸 治
学校教育支援室主幹 (生徒指導・特別支援担当)	青 柳 信 正
学校教育支援室主幹 (学務担当)	南 昭 一
施設管理課長	柿 岡 佳 憲
教育総務課長	森 田 裕 規
学校教育支援室主査	永 原 朋 宜
教育総務課総務係長	松 本 義 雄
教育総務課総務係	高 橋 ありさ

6 傍聴人 なし

7 議 題

議案第1号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択について

議案第2号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択理由書について

議案第3号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書採択結果の公表方法について

議案第4号 職員の訓戒について

協議第1号 朝里中学校の改築について

報告第1号 令和5年度小樽市一般会計補正予算に係る意見の申出(臨時代理)について

報告第2号 令和5年度標準学力調査結果報告について

報告第3号 令和5年度全国学力・学習状況調査結果等について

報告第4号 令和5年度学習及び生活習慣に関するアンケートについて

その他 市議会第2回定例会について
寄附採納について

8 議 事

教育長 ただ今から、教育委員会第8回定例会を開会いたします。
本日の会議の議事録署名委員に、黒田仁美委員を指名させていただきます。
はじめに、お諮りいたします。

「議案第4号 職員の訓戒について」は、会議規則第13条第1項第2号により、「協議第1号 朝里中学校の改築について」、「報告第2号 令和5年度標準学力調査結果報告について」、「報告第3号 令和5年度全国学力・学習状況調査結果等について」及び「報告第4号 令和5年度学習及び生活習慣に関するアンケートについて」は同項第5号により非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思っております。

また、議案第1号の議決結果を踏まえ、議案第2号の資料を整理する必要があるため、その他の報告の後に議案第2号及び議案第3号を審議していただきたいと思っておりますが、それではよろしいでしょうか。

<出席委員、異議なし>

では、そのように進めさせていただきます。

議案第1号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択について

教育長 本議案では、これまでの協議を踏まえ、令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書について採択したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

はじめに、これまでの経過について確認させていただきますので、議案の3ページ目にあります「採択経過」を御覧ください。

まず、5月31日の第5回定例会において、小樽市教科用図書調査委員会規則に基づき、令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書調査委員会要領を決定するとともに、調査委員会への諮問内容、調査委員会委員の任命及び委嘱について決定しました。

6月9日の調査委員会第1回総会では、教育委員会から各調査委員へ委嘱状を交付するとともに、調査委員会委員長へ諮問書を手交しました。

そして、7月21日の調査委員会第2回総会終了後、調査委員会委員長から教育委員会に答申をいただきました。

7月27日の第7回定例会では、調査委員会の各小委員長から、答申の内容について詳細な説明を受けました。

なお、各小委員長からは、6月9日から7月11日の間に、それぞれ3～4回、小委員会を開催し、調査研究を行ったとの報告を受けております。

その後、7月27日と8月7日に、勉強会を開催し、各教科用図書の精査、検討を行うな

ど、採択に向けた協議を重ねてまいりました。

「採択経過」については以上であります。

このあと、教科ごとに採択してまいりたいと思いますが、これまでの議論の中では、学習指導要領の目標や内容等に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に資する内容となっているか、などの観点で、各教科書の見本本の特色や違いについて、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。

本日は、どの教科書が、今の小樽の子どもたちにとって学習しやすく、教員にとって指導しやすいのか、これまでの議論を踏まえ、各委員の皆様から採択したい主な理由などについて、改めて、御意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

はじめに、「国語」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえ、どの教科書が良いとお考えでしょうか。御意見をお願いします。

小澤委員 私、光村がいいと思います。

理由は、前の学年で学んだことが最初に記載されているため、系統性を重視していることがわかります。前の学年の学習内容がまとめられているので、当該学年では、次への展開や指導の見通しができ、先生方の指導にも役立つと思います。子どもも、見通しを持って、主体的に学習に取り組むことができると思います。

荒田委員 私も、光村がいいと思います。

授業の流れがつかみやすく、子どもたちもわかりやすいと感じていると思います。さらに、「聞くこと」「話すこと」の領域なども、「問い」をもとに学習のねらいが示され、聞く活動や話す活動に取り組みやすさを感じます。いろいろな読み取りがある中で、それを紹介しているのは、子どもの学習に参考になると思います。

また、教科書の用紙がクリーム色がかったものなのも、柔らかく落ち着いた印象があります。

黒田委員 私も、光村がいいと思います。

理由は、「学習のてびき」を見ながら読み込んでいくと、子どもが学習の見通しがつかみやすいだろうと感じましたし、読み物も、いろいろな要素が組み込まれていて子どもたちの国語の力がついていこうと感じました。言葉に着目することだったり、いろいろな要素をちりばめていることだったり、結構深いところまで読み込めるようになっていると感じました。

教育出版の「見通しをもとう」のページは、言葉が単純で、子どもたちがどんなことすればよいのか明確でよいと思いました。

常見委員 私も、光村がいいと思います。

すでに皆さんが話されたので簡潔に話をしますが、巻末に「『たいせつ』のまとめ」として、学年の振り返りができるように工夫されているのがいいと思います。子ども自身が学習を振り返り、自分たちの身につけている力を確認して次の学年の学習に取り組むことは、必要な

ことだと思えます。

教育長

皆様、「光村」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、小澤委員からは、前の学年で学んだことが最初に記載されているため、系統性が重視され、次への展開や指導の見通しができ、先生方の指導に役立つとともに、子どもが見通しを持って、主体的に学習に取り組むことができる、という御意見。

荒田委員からは、授業の流れがつかみやすく、「話すこと」「聞くこと」の領域など、「問い」をもとに学習のねらいが示され、聞く活動や話す活動に取り組みやすさがある。いろいろな読み取りがある中で、それを紹介していることは、子どもの学習に参考になる、という御意見。

黒田委員からは、「学習のてびき」を見ながら読み込んでいくと、子どもが学習の見通しがつかみやすく、教材も、いろいろな要素が組み込まれていて子どもたちの力がついていく、という御意見。

常見委員からは、巻末に学年の振り返りが整理されている。子ども自身が学習を振り返り、自分についての力を確認して次の学年の学習に取り組むことができる、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「国語」は「光村図書」を採択したいと思えますが、皆様いかがでしょうか。

各委員

(なし)

教育長

それでは、「国語」は「光村図書」を採択することとします。

次に、「書写」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

小澤委員

私は、光村がいいと思えます。

理由は、3年生の毛筆で、初筆、中筆、終筆のそれぞれの段階で、ねこのキャラクターを登場させてしっかりまとめられています。毛筆では縦で3文字を書く場合や2文字の場合、文字の大きさをしっかりとらえさせる工夫がされていると思えます。

硬筆では、国語の教科書の内容が書写で扱われていることは、子どもにはなじみがあり、受け入れやすいのではないかと思います。東京書籍にある左手の鉛筆の持ち方が掲載されている写真もよいですが、総合的に光村がいいと思えます。

黒田委員

私も、光村がいいと思えます。

やはり、国語との関連は大切ですし、学習している場面を写真で示すことで、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるように工夫しているので、光村がいいと思えます。

常見委員

私も、光村がいいと思えます。

理由は、国語との関連性があつたほうが良いだろうと思えますし、「字のなぞとき」では、

子どもたちが楽しみながら文字に親しむよう、工夫されています。

6年生の「書写ブック」は各学年で学習したことを振り返り、子どもの日常に深く関わっていることを理解し、幅広い知識や教養を身に付け、日常に生かしていく態度を養うことができるよう工夫していますので、光村がいいと思います。

荒田委員 綺麗な字を書くことに関わり、姿勢の問題などがあり、どれがいいかは優劣がつけがたところではありますが、光村は擬音語を活用して筆遣いを直観的に理解できるよう工夫がされていて、1年生として子どもが取り組みやすいと思います。

総合的に、光村が良いと判断します。

教育長 皆様、「光村」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、小澤委員からは、毛筆では縦で3文字を書く場合や2文字の場合、文字の大きさをしっかりとらえさせる工夫がされている、硬筆では、国語の教科書の内容が書写で扱われていることは、子どもにはなじみがあり、受け入れやすい、という御意見。

黒田委員からは、学習している場面を写真で示すことで、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるように工夫している、という御意見。

常見委員からは、子どもたちが楽しみながら文字に親しむよう、工夫されている。各学年で学習したことを振り返り、子どもの日常に深く関わっていることを理解して、幅広い知識や教養を身に付け、日常に生かしていく態度を養うことができるよう工夫している、という御意見。

荒田委員からは、擬音語を活用して筆遣いを直観的に理解できるよう工夫がされていて、1年生として子どもが取り組みやすくなっている、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「書写」は「光村図書」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「書写」は「光村図書」を採択することとします。

次に、「社会」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

荒田委員 私は、教育出版がいいと思います。

理由は、教育出版は北海道の内容が多く扱われています。それが推したいところです。

見開きのページを多用していて見やすくなっており、本文中に大切な語句があり、課題解決型の学習形態からすれば、よりしっかり読み込むことができると思います。吹き出しも効果的だと思います。

また、アイヌの取扱いについても多くあり、アイヌの文化や歴史を学ぶために必要だと思いました。

常見委員 私も、教育出版がいいと思います。
理由は、3、4年生には差がないように思いましたが、5、6年には違いを感じました。
「寒い土地の暮らし」の単元では、教育出版がより詳しく魅力的に感じました。
「食糧生産」の単元の、ものづくりカレンダーでは、一連の流れがつかみやすく、見やすくなっています。
「食糧危機」の内容でも、教育出版が具体的に立場を分けて説明していて、大変わかりやすかったので、教育出版がいいと思います。

小澤委員 私も、教育出版がいいと思います。
理由の1つ目は、3年生の「私たちの町」の単元で、本市の副読本である「わたしたちの小樽」の「自分の住んでいる街を紹介しよう」に結び付けることができます。この扱いがユニークですし、ふるさと小樽をより深く学習することができます。
2つ目は、雪害の扱いですが身近な話題として、教育出版のみが扱っています。他社にはない内容であり、大切な学習だと考えます。

黒田委員 私も、教育出版がいいと思います。
理由は、「つかむ」「しらべる」「まとめる」「次につなげる」という学習の流れがわかりやすく、学習の見通しをつかみやすいところです。何のための授業なのかが一目でわかるのが良いと思います。
また、学習内容に関連した人たちのインタビューが多く載せられていて、どんな思いをしているのかがわかれば、子どもの考えを深めることができるので、とてもいいと思いました。

教育長 皆様、「教育出版」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、荒田委員からは、北海道の内容が多く扱われていて、見開きのページを多用して見やすくなっており、課題解決型の学習形態からすれば、よりしっかり読み込むことができる。アイヌの文化や歴史を学ぶための内容が充実している、という御意見。

常見委員からは、「寒い土地の暮らし」の単元では、教育出版がより詳しく魅力的であり、「食糧生産」の単元の、ものづくりカレンダーでは、一連の流れがつかみやすく、「食糧危機」の内容でも、具体的に立場を分けて説明しており、わかりやすい、という御意見。

小澤委員からは、本市の副読本「わたしたちの小樽」における「自分の住んでいる街を紹介しよう」の内容に結び付けることができ、この扱いがユニークであり、ふるさと小樽をより深く学習できる。身近な話題として、「雪害」についても取扱いがある、という御意見。

黒田委員からは、学習の流れがわかりやすく、学習の見通しをつかみやすい。何のための授業なのかが一目でわかるとともに、学習内容に関連した人たちのインタビューが多く載せられていて、わかりやすくなっている、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「社会」は「教育出版」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「社会」は「教育出版」を採択することとします。
「地図」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

常見委員 私は、帝国書院がいいと思います。
理由は、字体も区別されていて、高低を表す色分けによりとても見やすく、等高線の色使いもはっきりとしており、地形を立体的に感じ取ることができるよう工夫されています。
また、幅広いテーマに沿った地図を配置し、資料や写真と関連付けて社会的な見方や考え方を働かせることができるよう工夫されていると思います。

黒田委員 私も、帝国書院がいいと思います。
理由は、写真が多用されていて、とても見やすいことです。子どもたちに親しみやすいイラストや絵の記号を付けて、地図表現と関連させて深い学びを実現できるよう工夫がされていると思います。

小澤委員 私も、帝国書院がいいと思います。
理由は、美しさ、見やすさで、圧倒的に帝国がいいと思います。
3年生でも使えるなどの配慮があり、学年の系統を踏まえ、6年生まで使えるように工夫されています。初めて地図を使う子どもにとって、イメージをしやすい地図で編集されています。
資料も充実し、「地図の世界へようこそ」では、異なる角度から見ると、見えなかったものまで見えてくるということに気づかせてくれるような工夫がされていて、子どもたちの興味・関心を高めることができると思います。

荒田委員 私も、帝国書院がいいと思います。
理由は、帝国書院が色の使い方、配色などが他と違うので、とても見やすいと思います。
3年生には60万分の1、高学年になると100万分の1や、160万分の1など、子どももの成長段階に応じた活用の仕方が工夫されています。
北海道が見開きになっているので見やすく、アイヌに関する資料も充実しています。全体的な情報量が多くていいと思います。

教育長 皆様、「帝国書院」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、常見委員からは、字体も区別されていて、高低を表す色分けによりとても見やすくなり、等高線の色使いもはっきりとしており、地形を立体的に感じ取ることができる。幅広いテーマに沿った地図を配置し、資料や写真と関連付けて社会的な見方や考え方を働かせることができる、という御意見。
黒田委員からは、写真が多用されていて、とても見やすいこと、子どもたちに親しみやすいイラストや絵の記号を付けて、地図表現と関連させて深い学びを実現できるよう工夫がさ

れている、という御意見。

小澤委員からは、初めて地図を使う子どもにとって、イメージをしやすい地図で編集されている。資料も充実し、「地図の世界へようこそ」では、異なる角度から見ると、見えなかったものまで見えてくるということに気づかせてくれるような工夫がされていて、子どもたちの興味・関心を高めることができる、という御意見。

荒田委員からは、子どもの成長段階に応じた活用の仕方が工夫されており、北海道が見開きになっているので見やすく、アイヌに関する資料の充実など、情報量が多くてよい、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「地図」は「帝国書院」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「地図」は「帝国書院」を採択することとします。

次に、「算数」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

小澤委員 私は、教育出版がいいと思います。

理由は、子どもたちの「はてな」からめあてを導き、「なるほど」と考えて、興味・関心を高めるようにしています。こうした流れは、子どもにとっても、先生方にとっても授業を進めやすいと思います。

また、数直線が多用されて問題解決の糸口となっており、教育出版は数直線に方眼をつけているので、数量の関係も正確に捉えることができるよう工夫されている、と思います。

常見委員 私も、教育出版がいいと思います。

理由は、導入が大変わかりやすいと感じました。上の学年になると、巻末の問題数が多く内容も充実しており、繰り返し学習することで、基礎基本を定着させてから次学年の学習につなげていくことに役立つと思いました。

荒田委員 各者とも問題解決的な学習展開となるように構成されていますが、教育出版がいいと思います。

導入の段階が、教育出版がより丁寧で、身近なことをテーマとして取り上げ、問いを生み出し、学習課題につなげ、思考力・判断力・表現力等を高めるよう工夫されていて、非常によくまとめられていると思います。

黒田委員 私も、教育出版がいいと思います。

理由は、導入部分で、興味関心を抱かせるよう工夫されています。「はてな」「なるほど」とマークを効果的に使っており、視覚的に子どもが理解しやすいと思います。

巻末の問題集も日常的に授業や家庭学習で、子どもたちが使いやすい感じがしました。

教育長 皆様、「教育出版」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、小澤委員からは、子どもたちの「はてな」からめあてを導き、「なるほど」と考えて、興味・関心を高めている。数直線に方眼をつけているので、数量の関係も正確に捉えることができるよう工夫されている、という御意見。

常見委員からは、巻末の問題数が多く内容も充実しており、繰り返し学習することで、基礎基本を定着させてから次学年の学習につなげていくことに役立つ、という御意見。

荒田委員からは、導入の段階が、より丁寧で、身近なことをテーマとして取り上げ、問いを生み出して学習課題につなげ、思考力・判断力・表現力等を高めるよう工夫されている、という御意見。

黒田委員からは、導入部分で、興味関心を抱かせるよう工夫されている。「はてな」「なるほど」とマークを効果的に使っており、視覚的に子どもが理解しやすい。巻末の問題集も日常的に授業や家庭学習で、子どもたちが使いやすい、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「算数」は「教育出版」を採択したいと思います。皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「算数」は「教育出版」を採択することとします。

次に、「理科」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

常見委員 私は、東京書籍がいいと思います。

理由は、情報量は他社の方が多く感じましたが、見た目の写真などのインパクトが強く、視覚的にわかりやすいのが東書だと思いました。複数の事象の写真を横に連続して並べ、差異点や共通点を基に、「見方・考え方」を働かせ、問題を見出す力や問題を解決する力を身に付けることができると思います。

子どもにとって、より興味・関心や学習意欲を持たせたり、疑問を持たせたりして主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けることができるよう工夫されており、東京書籍がいいのではないかと思います。

荒田委員 私も、東京書籍がいいと思います。

理由は、東書はサイズが大きく、写真や文字も大きく見やすいと思います。自ら学びたいという気持ちを沸き立たせるためには、インパクトのある写真が必要だと思いました。

「問題をつかもう」から「まとめ」までを1本のラインで結び、児童が見通しをもって学習し、知識を確実に習得できるよう工夫されているので、東京書籍がいいと思います。

小澤委員 私も、東京書籍がいいと思います。

理由は、表紙が親しみやすく、目次も裏表紙に書かれて工夫されていると感じました。

巻頭の見開きで4つの分野に分けて学習内容を整理していることも中学校との接続を考

えて、よいことであると思います。

「レッツ・トライ」は、前にはなかった内容で、子どもの関心や興味が引き付けられるような工夫がされていると思います。

「まとめ」については、別の概念を1つの文にまとめて書かず、結論付けてから、次の文で説明することが科学的概念を身に付けるためには、大切なことではないかと考えます。

単元の振り返りをイラストなどで行っているのは、ノート指導にも役立つことなので、いいことだと思いました。

黒田委員 私も、東京書籍がいいと思います。

理由は、写真を多用して見やすく、導入から「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」とか、観察・実験・まとめる・広げるという学習の流れは、どの教科書も優越をつけがたいように感じました。ただ、皆さんと同様に、東書は文字が大きく見やすいこと、写真もカラフルで分かりやすいこと、目次が背表紙にあることも使いやすさを感じました。

理科離れが進んでいると言われている中で、医師の仕事を紹介して、理科と結び付けていることも意義があると思いました。

教育長

皆様、「東京書籍」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、常見委員からは、見た目の写真などのインパクトが強く、視覚的にわかりやすい。複数の事象の写真を横に連続して並べ、差異点や共通点を基に、「見方・考え方」を働かせ、問題を見出す力や問題を解決する力を身に付けることができる。子どもたちに興味・関心や学習意欲を持たせたり、疑問を持たせたりして主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けることができるよう工夫されている、という御意見。

荒田委員からは、サイズが大きく、写真や文字も大きく見やすく、自ら学びたいという気持ちを沸き立たせるためのインパクトのある写真が載せられている。「問題をつかもう」から「まとめ」までを1本のラインで結び、児童が見通しをもって学習し、知識を確実に習得できるよう工夫されている、という御意見。

小澤委員からは、表紙が親しみやすく、目次も裏表紙に書かれて工夫されており、巻頭の見開きでは、4つの分野に分けて学習内容を整理していることも中学校との接続を考えてもよいこと。「レッツ・トライ」は、前にはなかった内容で、子どもの関心や興味が引き付けられるような工夫がされている。「まとめ」は、別の概念を1つの文にまとめて書かず、結論付けてから、次の文で説明することが科学的概念を身に付けるためには、大切なことであり、単元の振り返りをイラストなどで行っているのは、ノート指導にも役立つ、という御意見。

黒田委員からは、文字が大きく見やすいこと、写真もカラフルで分かりやすいこと、目次が背表紙にあることも使いやすい。理科離れが進んでいると言われている中で、医師の仕事を紹介して、理科と結び付けていることも意義がある、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「理科」は「東京書籍」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「理科」は「東京書籍」を採択することとします。
次に、「生活科」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

黒田委員 私は、教育出版がいいと思います。
理由は、ページ左上にアイコンがあり、学習目標がわかりやすくいいと思いました。
写真もインパクトがあると感じましたし、児童用ワークシートが大きく、まとめやすいと感じました。
長期休業中の振り返りが家庭学習でも扱いやすいのではないかと感じました。

小澤委員 私は、東京書籍がいいと思います。
理由は、子どもたちがどんな学習をしていくのかが、わかりやすいと思います。
また、色づかいも優しい感じがします。
他にも、生物の成長の仕組みを、うまく子どもにイメージさせていくというところに工夫を感じました。学校で勉強してきたことを家でも学ぶことができるようになっています。
春夏秋冬の町の様子のことを書いていますが、地域の売っているものが季節によって変わっていることでとても分かりやすいと思いました。

常見委員 私は、教育出版がいいと思います。
1点面白いと思ったのは「わくわくスイッチ」で、主体的な学習につながる動機付けをすることができ、使いやすいのではないかと感じました。
写真が単発で入っていたり文章も少ないと感じましたが、最初の1年生の入りとしては使いやすいを重視して、教育出版がいいと思いました。

荒田委員 私は、東京書籍がいいと思います。
理由は、1年生の公園の景色は、季節の変化がとても分かりやすく、入学してくる児童にとって丁寧な扱いだと感じました。幼稚園以外から入学する子どもについても、小1プロブレムへの配慮を感じました。
「学級」のページでは、小規模校もあるので、少人数でそれぞれが楽しんでいる様子が掲載されているのもよいと感じました。

教育長 ありがとうございます。ただ今の御意見では、東京書籍が2人、教育出版が2人、ということでしたが、今の話をお聞きして、何かございませんでしょうか。

荒田委員 教育出版は「学校生活をこうしていきましょう」という考え、東京書籍は「学校生活を楽しみましょう」という考えの違いが見られます。
教育出版は巻末の「学びのポケット」も各教科へのつながりを意識し、東京書籍は「便利手帳」としてまとめて理科など他教科との関連を示していると思います。

小澤委員 教育出版は、1年生は教科ごとの様子を写真でまとめているのですが、東京書籍は教科名を記載しなくてもわかるような写真でつながりを示していて、東京書籍は「体験重視型」というように感じました。

東京書籍の「わくわくスイッチ」は、主体的な学びを実現するにあたり、使いやすいように工夫されていると思いますが、「学びのポケット」は1年生では自分が楽しみたいこと、不思議と思うこと、おもしろいと思うことなどを体験するのが中心だと思いますので、少し難しい内容だと思います。板書例についても、情報量が多過ぎるのではないかと思います。

黒田委員 東京書籍は、1年生の最初のタイミングに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を言葉で記載していますが、どの家庭も同じようにできる訳ではないので、1年生での取組で、どう成長していくのかゴールの姿を示してあげる方が、保護者にとっては、ありがたいのではないかと思います。

小澤委員 教育出版は、夏を探すページで「わくわくスイッチ」から「はっけんロード」につながる一方で、動物の飼育のページのように、大きな写真だけでも子どもがやってみたい気持ちになっているところもあります。東京書籍はイラストや写真を上手に活用して、子どもがやってみたいという気持ちになるよう工夫していると思います。

常見委員 私は、使いやすさ、便利さなどの観点から「わくわくスイッチ」を推しましたが、総合的な見やすさ、わかりやすさを比べたときには、東京書籍もかなり優れていると思います。授業の中で、先生方が「わくわくスイッチ」のような工夫ができるのであれば、東京書籍がいいのだと思います。

小澤委員 1年生は、写真などを見てやりたい気持ちになるはずだと思います。
「わくわくスイッチ」で経験や体験のある子どもとない子どもの温度差が出てくることもあると思います。

黒田委員 確かに、東京書籍の写真は、子どものわくわく感がすごく伝わってきて、いい授業が展開されていくと思います。逆に、教育出版は北海道の冬の様子が掲載されていたり、クロムブックを使っている学習の様子がイメージしやすいよう工夫されていたりするのもよいと思います。

「学びのポケット」の情報量についても、子どもたちは自分で一生懸命見て発見したものは、子どもにとってためになるものであると思います。

荒田委員 生活科は、わくわく感や好奇心をもたせることが必要だと考えると、東京書籍は視覚に直感的に訴えるものとやさしいイラストが多いと感じました。教育出版にある冬の写真などは、子どもたちの楽しそうに動いている姿は印象的ではありますが、決められた流れにのせて授業を展開するようになっていいると感じたので、東京書籍がいいと感じました。

常見委員 皆様話を聞いて、「わくわくスイッチ」のような工夫は先生方をお願いしたいところですが、見やすさ、わかりやすさ、インパクトのある写真などが多い東京書籍も優れていると思いますので、総合的に東京書籍でよいと思います。

黒田委員 教育出版のいいところはたくさんあると思いますが、子どもたちのわくわく感とか、やってみたいと思う気持ちを優先すると、総合的に東京書籍でよいのではないかと思います。

教育長 ありがとうございます。子どもたちの「わくわくする気持ち」や「やってみたいという気持ち」を学習活動につなげていく観点から、「東京書籍」が良いという意見にまとまりましたので、皆様からいただいた、主な御意見を私の方で整理してみましたので、申し上げますと、黒田委員からは、教科書の写真は子どもたちのわくわく感とか、やってみたいと思う気持ちがすごく高まり、いい授業が展開されていくのではないかと、という御意見。

小澤委員からは、子どもたちがどんな学習をしていくのかが、わかりやすい。生物の成長の仕組みを、うまく子どもにイメージさせていくという工夫や、イラストや写真を上手に活用して、子どもがやってみたい気持ちになるよう工夫している「体験重視型」で構成されており、学校で勉強してきたことを家でも学ぶことができるようになっている、という御意見。

常見委員からは、見やすさ、わかりやすさ、インパクトのある写真などが多く、総合的に優れている、という御意見。

荒田委員からは、幼稚園以外からの入学についても、小1プロブレムへの配慮を感じる。「学校生活を楽しみましょう」という考えが見えるとともに、「便利手帳」として他教科との関連を図っている。視覚に直感的に訴える写真とやさしいイラストが多く、子どもたちに「わくわく感」や「好奇心」をもたせることができる、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「生活科」は「東京書籍」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「生活科」は「東京書籍」を採択することとします。

次に、「音楽」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

小澤委員 私は、教育出版と教育芸術社、どちらがいいか悩んでいます。

教育芸術社は、それぞれの曲をどのように歌ったらいいのか、細かく示されており、専科の先生であれば、教芸の教科書で学習すれば、より専門的な指導ができると思います。

教育出版は「まなびナビ」で、学習の手順が示されています。全校合唱が載っているので、4年間同じ曲の合唱をやることになるのかどうか、どちらの教科書を使うと、子どもたちが楽しんで音楽に取り組んでもらえるか迷っています。

荒田委員 私も、判断に迷っています。

2者とも北海道に関する音楽や外国の音楽を扱っています。楽器のリコーダーや鍵盤ハーモニカの指導についても丁寧に示されており、差はないものと思いました。

教育芸術社は、低学年で幅広く多様なジャンルの曲を学習しており、旋律の高い低い、音の強弱など、低学年から感覚的に捉えられるようになってきていると思います。

判断に迷っているなので、皆さんの意見を聞いて、考えをまとめたいと思います。

常見委員 私は、教育芸術社がいいと思います。

低学年は「考える」「見つける」「演奏する」などがアイコン別に表現されて細かな指導に役立つと思います。

教育出版は「音楽のもと」で短い言葉でポイントを表現しています。

どちらがいいか、分かりかねていますが、どういう風に音楽に楽しむのかが、分かるようになっていこう方がいいのではないかと感じていますが、音楽なので、一人一台端末との関連も考えると、單元ごとに動画がたくさんある教育出版がいいのではないかと思います。実際に教科書で音楽を学んでいくという観点では、教育芸術社がいいのではないかと思います。

黒田委員 私は、教育出版がいいと思います。

最初に、音楽を成り立たせる「音楽のもと」では、音楽を構成する要素がまとめられ、音楽の学習をするうえで欠かせないものが入っており、それらが合わさって音楽になるということが一番伝えやすい教科書だと思います。

さらに、子どもが見通しをもてるよう活動をわかりやすく明示し、主体的に学習に取り組むことができるようになっていきますので、教育出版がいいと思います。

教育長 ありがとうございます。ただ今の御意見では、教育芸術社が1人、教育出版が1人、ということでしたが、今のお話を聞いて、何かございませんでしょうか。

小澤委員 「音楽のもと」に記載のあることは、本当に勉強になるというのはそのとおりだと思います。音楽は早くから習っている方が身に付きやすい教科であり、体育のスキーや水泳などのように個人差が大きくなります。その差を何とか埋めてあげることができるように、基本を1番に大切にするというのであれば、「学びナビ」で指導のポイントが明確に示されている教育出版がいいと思います。

荒田委員 音階や音の強弱をより聴き取ることができ、音楽として学校でもなじみがあるものが、子どもの学習効果がイメージしやすく、これまでと継続した取り組みができますし、外国の音楽文化についても、多様な曲譜の音楽を扱っているので、教育出版がいいと思います。

常見委員 リコーダーの扱いについては教育芸術社がいいのではないかとこの思いもあります。

しかし、「音楽のもと」の話を改めて見直したり、皆さんの話を聞いて、より子どもが楽し

く、主体的に学習に向かう姿もイメージがつきましたので、総合的に教育出版がいいと思います。

教育長 ありがとうございます。子どもが見通しをもって学習活動に取り組みやすく、子どもたちの個人差を埋めるために先生方にとって指導しやすいという観点から、「教育出版」が良いという意見にまとまりましたので、皆様からいただいた、主な御意見を私の方で整理してみましたので、申し上げますと、小澤委員からは、個人差が大きくなる音楽では、その差を埋めてあげることができるように、基本が1番大切であり、「学びナビ」では指導のポイントが明確に示されている、という御意見。

荒田委員からは、音階や音の強弱をより聴き取ることができ、音楽として学校でもなじみがあるものが、子どもの学習効果がイメージしやすいため、これまでと継続した取り組みができる。外国の音楽文化についても、多様な曲譜の音楽を扱っている、という御意見。

常見委員からは、「音楽のもと」を改めて見直したり、皆さんの話を聞いたところ、より子どもが楽しく、主体的に学習に向かう姿もイメージがつく、という御意見。

黒田委員からは、「音楽のもと」では、音楽を構成する要素がまとめられていて、音楽の学習をするうえで欠かせないものがあり、子どもが見通しをもてるよう活動をわかりやすく明示して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「音楽」は「教育出版」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「音楽」は「教育出版」を採択することとします。

次に、「図画工作」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

小澤委員 私は、日本文教出版がいいと思います。

理由は、それぞれの作品がユニークで、多彩な表現活動がされていることです。題材ごとページ冒頭に、3つのマークで「学習のめあて」が提示されていて、子どもが主体的に目標を見付け、授業の流れをイメージしながら活動できるよう工夫されているところが良いと思いました。

また、「絵鑑賞」「工作鑑賞」などの記載があり、絵をかいて鑑賞するまでを1つのまとめとしていることは、「絵」と記載するよりも子どもの活動がどんな意味があるのか明確になっています。

黒田委員 私も、日本文教出版がいいと思います。

理由は、掲載されている写真が魅力的で、子どもが作ってみたいという気持ちになると感じました。

教科書の左上にテーマや工程が明確に示されており、子どもたちが見通しをもって活動で

き、その活動を通して知識が確実に習得できると思います。

常見委員 私も、日本文教出版がいいと思いました。

理由は、教科書の下に用語が整理されていることと、作品を制作する授業では、みんなが同じように想像できるわけではないので、教科書に掲載されている写真が重要になります。日本文教出版の写真は、立体的に捉えやすいよう工夫されていると思いました。

荒田委員 私も、日本文教出版がいいと思います。

理由は、文章自体は少なく感じますが、子どもの作品や作業の様子や手順を示した写真が多いところです。中学校の美術と小学校の図画工作の違いで見比べるならば、ミニアートカードの取組は、図画工作としては十分に活用できると思いました。アイヌの人たちのアットウシも掲載されており、北海道にとってアイヌの人たちの文化に触れることは大切なことだと思います。

教育長

それでは、「日本文教出版」が良いという意見にまとまりましたので、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、小澤委員からは、題材ごとページ冒頭に、3つのマークで「学習のめあて」が提示されていて、子どもが主体的に目標を見付け、授業の流れをイメージしながら活動できるよう工夫されている、「絵鑑賞」「工作鑑賞」などの記載があり、絵をかいて鑑賞するまでを1つのまとめとしていることは、「絵」と記載するよりも子どもの活動がどんな意味があるのか明確である、という御意見。

黒田委員からは、掲載されている写真が魅力的で、子どもが作ってみたいという気持ちになる。教科書の左上にテーマや工程が明確に示されており、子どもたちが見通しをもって活動でき、その活動を通して知識が確実に習得できる、という御意見。

常見委員からは、教科書の下に用語が整理されていることと、作品を制作する授業では、みんなが同じように想像できるわけではないので、教科書に掲載されている写真が重要になる。日本文教出版の写真は、立体的に捉えやすいよう工夫されている、という御意見。

荒田委員からは、子どもの作品や作業の様子や手順を示した写真が多く、アイヌの人たちのアットウシも掲載されており、北海道にとってアイヌの人たちの文化に触れることは大切なことである、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「図画工作」は「日本文教出版」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長

それでは、「図画工作」は「日本文教出版」を採択することとします。

次に、「家庭科」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

小澤委員

私は、開隆堂がいいと思います。

理由は、誕生から6年生までの時間の流れが、子どもにとってインパクトがある表し方に

なっていました。各題材が「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つ学習の過程と学びの内容で整理されているところが良いと思いました。

調理の流れも横一列に配置されていて、わかりやすくなっていますし、裁縫の学習では、ミシンの使い方もわかりやすく、事故防止への配慮もされていると思います。

食材の英語表記も他教科との関連が図れていると思います。

荒田委員 私も、開隆堂がいいと思います。

理由は、1日の時間の流れを円で示しており、わかりやすいと思います。

また、授業の流れがステップに分けて表現され、子ども主体の学習として、大変分かりやすく工夫されていると思います。

キャリアインタビューが随所にあり、キャリア教育の点からも役立つ記載であると思います。

黒田委員 私も、開隆堂がいいと思いました。

理由は、図が見やすく、特に調理実習はとてもわかりやすいと思います。実習の過程では、どのタイミングで何をするのか、どんな道具を使うのか、が明確に示されていると思います。

机の中の整理整頓についても、段取りの仕方が1つ1つ丁寧に示され、子どもたちが図や写真を見て理解しやすいと思います。

常見委員 私も、開隆堂がいいと思いました。

目次が見やすく整理されているところがいいと思います。

調理では教科書を確認しながら実習するので、横一列になっているのが見やすいと思います。また包丁の使い方も掲載され、教科書の見開きで実習を完結できるように工夫されていると思います。

裁縫では、ミシンの糸をつける手順がわかりやすく説明されていると思います。

教科書が水をはじくことは、作業が多い家庭科では大切な要素だと思います。

教育長

それでは、「開隆堂」が良いという意見にまとまりましたので、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、小澤委員からは、誕生から6年生までの時間の流れが、子どもにとってインパクトがある表し方になっている。各題材が「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つ学習の過程と学びの内容で整理されている。調理の流れも横一列に配置されていて、わかりやすくなっており、裁縫の学習では、ミシンの使い方もわかりやすく、事故防止への配慮もされている。食材の英語表記も他教科との関連が図れている、という御意見。

荒田委員からは、1日の時間の流れを円で示しており、わかりやすくなっている。授業の流れがステップに分けて表現され、子ども主体の学習として大変分かりやすく工夫されている、キャリアインタビューが随所にあり、キャリア教育の点からも役立つ記載である、という御意見。

黒田委員からは、図が見やすく、特に調理実習はとてもわかりやすく、実習の過程では、

どのタイミングで何をするのか、どんな道具を使うのか、が明確に示されている。整理整頓についても、段取りの仕方が1つ1つ丁寧に示され、子どもたちが図や写真を見て理解しやすい、という御意見。

常見委員からは、目次が見やすく整理されている。調理では教科書を確認しながら実習するので、横一列になっているのが見やすく、教科書の見開きで実習を完結できるように工夫されている。裁縫では、ミシンの糸をつける手順がわかりやすく説明されている。教科書が水をはじくことは、作業が多い家庭科では大切な要素である、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「家庭科」は「開隆堂」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「家庭科」は「開隆堂」を採択することとします。

次に、「保健」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

常見委員 私は、東京書籍がいいと思います。

理由は、心の健康に関して、不安や悩みをあまり感じさせないような構成になっています。具体的な例を挙げ、自分事として捉えられるようにしていると思います。

また、病原体やウイルス、細菌についての扱いについても、よりよい表現となるよう配慮されているところがよいと思います。

荒田委員 私も、東京書籍がいいと思います。

4つのステップを最初に示し、学習に取り組んでいくことは、子どもたちにとって、何をすればいいのかが明確になり、わかりやすく主体的な学習につながるものと思います。

資料が充実しており、目次の資料から健康に関する話がいろいろなページに盛り込まれ、内容項目も多くあり、子どもが健康について調べる活動に役立つと思います。

小澤委員 私も、東京書籍がいいと思います。

理由は、事例を提示して問いかけが繰り返され、子どもたちの話し合い活動が充実すると思います。

「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・いかす」の4つのステップで整理されており、子どもたちが学習の進め方に見通しをもつことができ、問題解決的な学習につながっていくことができるようになっていると思います。

黒田委員 私も、東京書籍がいいと思います。

理由は、必要な情報量が多く、資料も充実していると思います。

書込み欄も先生方が授業で活用しやすいのではないかと思います。

「性教育」や「性の多様性」などの今日的な課題についても話し合いをしながら課題解決

していく学習活動を設けています。

「がん」についての記載もあり、がん教育でも活用できると思います。

教育長

皆様、「東京書籍」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、常見委員からは、心の健康に関して、不安や悩みをあまり感じさせないような構成になっており、自分事として捉えられるようにしている。また、病原体やウイルス、細菌についての扱いについても、よりよい表現となるよう配慮されているところがよい、という御意見。

荒田委員からは、4つのステップを最初に示し、学習に取り組んでいくことは、子どもたちにとって、何をすればいいのかが明確になり、わかりやすく主体的な学習につながる。資料が充実しており、目次の資料から健康に関する話がいろいろなページに盛り込まれ、内容項目も多くあり、子どもが健康について調べる活動に役立つ、という御意見。

小澤委員からは、事例を提示して問いかけが繰り返され、子どもたちの話し合い活動が充実する。4つのステップで整理されており、子どもたちが学習の進め方に見通しをもつことができ、問題解決的な学習につながっていくことができる、という御意見。

黒田委員からは、必要な情報量が多く、資料も充実しており、書込み欄も先生方が授業で活用しやすい。今日的な課題についても話し合いをしながら課題解決していく学習活動を設けており、「がん」についての記載もあり、がん教育でも活用できる、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「保健」は「東京書籍」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員

(なし)

教育長

それでは、「保健」は「東京書籍」を採択することとします。

次に、「外国語」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえて、どの教科書が良いとお考えでしょうか。

荒田委員

私は光村図書がいいと思います。

他の教科書もだいぶ内容が変わりましたが、光村図書は、右上にゴールに向けての段階が示されていて、子どもが学習に取り組みやすくなっています。

絵辞書が別冊で挟み込まれ、取り外しができるので、書き写す活動や語彙を探す活動のときに活用しやすくなっていると思います。

黒田委員

私も、光村図書がいいと思います。

先ほどの話にもありましたが、右上にゴールに向けての段階が示されていて、子どもが授業の導入を確認しやすく、何ができるようになるのかを明確にして学習に取り組むことができるのが、いいところだと思います。

常見委員

私も、光村図書がいいと思います。

理由は、ユニットごとに重点化する領域が設定され、子どもにとって、学習の目標や流れが明確になり、学習に取り組みやすく、また、タブレットを利用した学習も大変しやすいと思われました。

小澤委員 私も、光村図書がいいと思います。

理由は、他社は言葉がたくさん書かれてあり、子どもたちにとって大変で難しいと感じた半面、光村図書は「CAN-DO」で子どもたちが学習する内容が整理され、見通しをもって学習に取り組むことができることです。

場面のイラストを見ながら、英語を聞いて、自分で話して、その上で書く活動ができるようになっており、子どもたちが抵抗感が少なく学習に向かっていくことができると思います。

教育長 皆様、「光村図書」が良いということですが、ただ今、皆様からいただいた御意見を私の方で整理してみましたので申し上げますと、荒田委員からは、右上にゴールに向けての段階が示されていて、子どもが学習に取り組みやすくなっており、絵辞書が別冊で挟み込まれ、取り外しができるので、書き写す活動や語彙を採る活動のときに活用しやすくなっている、という御意見。

黒田委員からは、右上にゴールに向けての段階が示され、子どもが授業の導入を確認しやすく、何ができるようになるのかを明確にして学習に取り組むことができる、という御意見。

常見委員からは、ユニットごとに重点化する領域が設定され、子どもにとって、学習の目標や流れが明確になり、学習に取り組みやすい、という御意見。

小澤委員からは、「CAN-DO」で子どもたちが学習する内容が整理され、見通しをもつことができる。場面のイラストを見ながら、英語を聞いて、自分で話して、その上で書く活動ができるようになっており、子どもたちが抵抗感が少なく学習に向かっていくことができる、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「外国語」は「光村図書」を採択したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「外国語」は「光村図書」を採択することとします。

次に、「道徳」についてですが、委員の皆様、これまでの議論を踏まえ、どの教科書が良いとお考えでしょうか。御意見をお願いします。

黒田委員 私は、東京書籍と光村図書で悩んでいて、どちらも題材がいいと思います。

光村図書は問いが多く、自分の考えを掘り下げるためにはよいと思いますが、逆に子どもの解釈を広げたり、自分の引き出しに落とし込めたりするためには、問いが少ない東京書籍がいいのではないかと考えています。

光村図書は「つなげよう」で実生活につなげていくことができるようになってきているのも、いいところだと思います。

まだ、迷っています。

荒田委員 私は、光村図書か東京書籍のどちらかと思っていますが、教材の終わりの問いかけのバリエーションは光村図書が1番いいと考えていて、子どもの心の内面に深く問いかける問いが多いので、光村図書を引き続き使用することだと思います。

常見委員 私は、東京書籍がいいと思います。

子どもたちのいろいろな考えを引き出したり、つながりや広がりが出てくるので、終わりの問いは少ないほうがいいと思います。東京書籍の問いがわかりやすく、光村図書は難しいように思います。

小澤委員 私は、光村図書がいいと思います。

教材の終わりに3つの問いが設けられているのは、光村図書と光文書院ですが、光村図書は内容が子どもたちに考えやすいものになっていると思います。東京書籍に設けられている2つの問いも話し合いを進めやすいのではないかと考えましたが、内容が子どもたちにとって考えやすく、教材を通して習ったことを生活につなげて主体的に道徳性を養うことができるという観点で光村図書がよいと思います。

教育長 ありがとうございます。ただ今の御意見では、光村図書が2人、東京書籍が1人ということでしたが、他の方の御意見をお聞きして、何かございませんでしょうか。

黒田委員 皆さんの意見を聞いて、子どもたちに内容が分かりやすいことや実生活とのつながりに結び付けて、現代的な課題と向き合うことを育むことができることも、いいところだと思いますので、光村図書でいいと思います。

荒田委員 光村図書には、巻末に思考ツールが掲載され、子どもたちがこれらを活用して多様な活動に取り組むことで、相手の考えを受け止めたり、自らの学びを深めたりすることができるよう工夫しているのもいいと思います。

常見委員 皆さんの意見を聞いて、子どもたちが自ら発想力を膨らまし、自分の考えを実生活で生かすということは大切なことであると理解でき、慣れている現行の教科書で子どもたちの考え、議論する力を伸ばしていくことができると考えますので、私も現行の光村図書でいいと思います。

教育長 ありがとうございます。子どもたちが自ら考えて、話し合いの中から何かを感じ、それを実生活で生かしていくという観点から、「光村図書」が良いという意見にまとまりましたので、皆様からいただいた主な御意見を私の方で整理してみましたので、申し上げますと、黒田委員からは、問いが多く、自分の考えを掘り下げるためにはよい。「つなげよう」で実生活とのつながりに結び付けて、現代的な課題と向き合うことを育むことができる、という御意見。

荒田委員からは、子どもの心の内面に深く問いかける問いが多い。多様な活動に取り組むことで、相手の考えを受け止めたり、自らの学びを深めたりすることができる、という御意見。

常見委員からは、子どもたちが自ら発想力を膨らまし、自分の考えを実生活で生かすということは大切なことであり、子どもたちの考え、議論する力を伸ばしていくことができる、という御意見。

小澤委員からは、内容が子どもたちに考えやすく、教材を通して習ったことを生活につなげて主体的に道徳性を養うことができる、という御意見をいただきましたので、これらの理由から、「道徳」は「光村図書」を採択したいと思います。皆様いかがでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「道徳」は「光村図書」を採択することとします。

次に、特別支援学級で使用する教科書についてですが、道教委の採択基準に則り、当該学年の教科書を使用することが適当でない場合は、児童一人一人の実態に応じて、できるだけ選択の幅を広げて考えていくことが必要となりますことから、次の3点を使用できるようにしたいと思います。

1つめは、今回、採択した下学年用の教科書。

2つめは、文部科学省著作教科書。

3つめは、北海道教育委員会の「令和6年度使用小・中学部を置く特別支援学校及び小・中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）採択参考資料の一般図書一覧」に掲載されている一般図書。

以上3点を、特別支援学級において使用できるよう採択したいと思います。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、「特別支援学級」は「今回、採択した下学年用の教科書」「文部科学省著作教科書」「北海道教育委員会の「令和6年度使用小・中学部を置く特別支援学校及び小・中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）採択参考資料の一般図書一覧」に掲載されている一般図書」の3点を採択することとします。

なお、採択の理由につきましては、これから事務局に整理させますので、後ほど「採択理由書」について協議していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは事務局、よろしく申し上げます。

以上で、「議案第1号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択について」終了いたします。

続きまして、「報告第1号 令和5年度小樽市一般会計補正予算に係る意見の申出（臨時代理）について」の説明をお願いします。

報告第1号 令和5年度小樽市一般会計補正予算に係る意見の申出（臨時代理）について

教育総務課長 先月の教育委員会定例会で協議として委員の皆様にお諮りした令和5年度小樽市一般会計補正予算案について、5枚目6枚目のとおり、8月23日に市長から教育委員会の意見を求められたため、同日、小樽市教育委員会事務委任等規則第4条の規定に基づき、教育長が臨時代理により異議なしと決定しましたので、御報告いたします。

今回は全て要求額どおりとなっております、先月説明させていただいた内容のとおりとなっております。

1件目特別支援学級設備等整備事業費についてですが、銭函小学校に令和6年度に医療的ケア児の入学が予定されているための施設改修です。先月説明させていただいた時より備品整備費が少し安くなっておりますが、これは安く購入できる場所が見つかったというところでもあります。

2件目交通災害遺児奨学資金基金積立金は、先月の報告どおりの2万円の寄附があったため、基金に積み立てるものです。この後寄附の報告がございしますが、こちらは第4回定例会での予算計上となります。

3件目奨学資金基金積立金ですが、こちらは先月に、6月の寄附分に対して10万円で協議をさせていただきましたが後ほど報告する寄附が時間的に予算計上に間に合いましたので10万円増額になり、20万円の寄附があったため、基金に積み立てるものです。

4件目はPCB廃棄物処理関係経費として、博物館は鉄道車両解体に伴い判明した高濃度PCB含有部品を今度は、PCB廃棄物処理施設に運搬し、処理するものとなっております。こちらが、3,441万6千円、さらに教育委員会庁舎の安定器にPCBが使用されていたため、その処理費用として404万2千円を要求したものです。

5件目の空調設備整備事業につきましては、既に改修の際にエアコンが設置してある幸小学校を除く残りの23校にウインドエアコンを保健室に設置する事業で、合計192万3千円となっております。休業の期間に入ったとはいえ、今週は本当に暑い日が続いていますし、市教委としても問題意識を持っていました。後ほど報告をさせていただき、寄付金100万円を活用しております。

6件目の市有施設Wi-Fi整備関連予算です。

市役所全体で今回の整備に当たっての考え方にに基づき施設を選定したものです。

市有施設でWi-Fiの設置を求める声が多く、目的としては利用者サービスの向上、観光客へのおもてなし、防災・減災の観点から整備をするところがございます。

整備に当たっては総務部総務課で施設ごとの優先順位や財政的な負担も考慮し検討し、自治体が設置するものであることから、セキュリティ及び接続の安定を検討する。また、各部のヒアリングを踏まえ、市民が利用する会議室等の機能として必要な場所、不特定の人が多く利用するロビーなど、現在の利用頻度が高い施設ということで選定しております。

今後新たな事業展開と併せWi-Fiを必要とする場合には、その事業費の中で整備する。

この基準の中で、教育委員会所管の施設としては、生涯学習プラザ、図書館が選定されました。ちなみにほかの施設ですが、市役所の市民ホール、市民会館のロビー、公会堂の集会所と和室、市民センターのロビー、会議室、研修室、勤労青少年ホームといった施設が市役所全体としては選ばれているというかたちになってございます。

7件目としては、電気機関車部分保存経費です。PCB機器を取り出した車両ですが、解体作業の結果、業者の方々にも努力をいただき、保存に耐えうる状態となりました。作業の行程で、車両の下部の作業をする必要がありますが、廃棄の場合に想定をしていなかった作業として、車両上部を前、中、後と分けますが、原型を保ちながら、吊り下げる作業が必要になります。そのため、補強の作業など、今年度最低限すべき必要なこととして予算を計上するものです。

なお、本格的な修復作業や展示に向けた作業につきましては来年度となり、改めて報告をさせていただきます。

私からは以上です。

教育部長 補足します。

委員の皆様は先に情報をお知らせしたあと新聞に載るという順番が本来正しいのですが、先に道新さんが新聞に掲載してしまったことがありまして、この場をおかりして、お詫びしたいと思います。

電気機関車についてはお話しさせていただきましたけれども、市議会の日程で補正予算で高濃度PCBを除去し、野ざらしの状態だったのでバラバラにする必要があるだろうとなっていたのですが、委託業者が慎重に作業し上手くくり抜いたため、うまく外側を残せるのではないかという状態になりまして、希少な車両なので残していけるような手続きを取っていく方針となり、ただ残すのではなくて、雪や雨を防ぐ屋根をかけながら色々なことを考えていかなくはいけないのですが、まずは養生費をとっていくという中で、解体すると市議会に御説明していたものですから、この度9月の市議会第3会定例会で説明する中で新聞の記事になってしまったという部分がございます。

それとこの教育委員会庁舎について、道教委から譲り受けて入っている状態なのですが、当建物の奥を検査したところ、高濃度PCBが出てきてしまって、この処分もしなくてはいけなくなり、この庁舎だけではなく市有施設で何か所か出てきておりまして、まとめてこれも9月に補正予算をいただき処理するという議会への一連の説明の中で新聞記事になったということで報告が遅くなってしまい申し訳ございませんが、そういった理由のなかで、前後したことをお詫びいたします。

教育長 今部長の方から話がありましたが、一部、内々で進めていたことが新聞記事になったものですから、大変失礼いたしました。

本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

状況は部長の言ったとおりです。来年度の予算に向けて、例えば電気機関車の保存経費はどういうかたちで保存するのもも含めて予算を要求していく予定になっていきます。予算がつくのかはまた別の話ですが、御審議いただければと思います。

よろしいですか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
続きまして、その他の報告で、「市議会第2回定例会について」の説明をお願いします。

その他 市議会第2回定例会について

教育部長 小樽市議会第2回定例会の質疑概要につきまして御報告いたします。

資料の表紙の次に、目次がございます。6月20日代表質問から記載されていますが、その前日6月19日にも代表質問の時間があったのですが、教育委員会関係の質疑が1つもありませんでしたので、目次には載せてございません。

6月21日が一般質問、23～26日が予算特別委員会、27日が総務常任委員会という日程でございます。

それでは1ページ目からポイントで説明させていただきます。

6月20日代表質問、公明党の横尾議員より、「3デジタル産業に関する対応」についての「デジタル人材の育成について」、理系の人材育成の観点から「理数はできるが楽しくない」「理数を使う職業につきたいと思わない」「理系の職業にイメージがわからない」などの課題を解消する取組の実施が大切であるという御質問がありました。

教育長より「児童生徒の発達を踏まえ、小中学校の段階から、創造性や探究心を育み、チャレンジする個性を伸ばして、高等教育につなげていくことが大切であり、理数好きの子ども裾野を広げる取組が重要であると認識している。総合博物館についてはジュニア科学講座、科学の祭典を開催、外部講師を招へいた研修講座を行い、教員の指導力向上に取り組んでいることに加え、企業や大学による出前授業等を通して、理系の人材育成につなげてまいりたいというふうに考えております。」と御答弁いただきました。

6月20日代表質問、みらいの中村岩雄議員より、「文化、芸術等について」の「蘭島・忍路地区のまちづくりと埋蔵文化財について」ということで、国・道指定史跡を早急に整備することについて、教育長の考えは、との御質問がありました。

教育長より「忍路環状列石や地鎮山環状列石の整備につきましては、駐車場や案内板など、見学者のための環境整備ですが、周辺が農地であることから利活用が制限されている課題があり、課題解決に向けて取り組んでいく必要があるものと考えております。」と御答弁いただきました。

6月20日代表質問、共産党の酒井議員より、「補正予算、条例案関連について」の「長寿命化改良工事と改築工事の違い」と「朝里中学校の再整備の時期」について御質問がありました。

教育長より、「長寿命化改良工事は、現校舎の老朽化対策やライフラインの更新等による耐久性の向上、バリアフリー化などによる建物の機能を向上のための改修工事。一方改築工事については、校舎などを新たに建設する工事。朝里中学校の再整備の時期については、本年

第3回定例会でお示しできるよう進めてまいりたい。」と御答弁いただきました。

また「改築工事がさらなる先送りとならない担保を示せ。」ということで、教育長より「改築工事を行う場合は、国の交付金や市債の償還に影響を及ぼさないように、再整備に向けた時期については、国の財産処分手続の基準である10年程度の期間を目安としながら、これから関係部局と協議していく。」と御答弁いただきました。

「長寿命化計画の見直しの必要はないのか。」について、教育長より「朝里中学校の整備方針の変更に加え、労務費や建築資材などの高騰による事業費の再精査、財源の検討などが必要となるほか、本長寿命化計画策定後に、小樽市PPP/PFI手法導入検討指針が昨年12月に導入されたため、計画の見直しは必要である。」と御答弁いただきました。

「小中学校グラウンド整備」について、「グラウンドの整備と長寿命化計画の関連性について」、教育長より、「グラウンド整備は、国の方針に基づき、本長寿命化計画の対象としない。」と御答弁いただきました。

「小中学校給食費」について、「昨年度12月から3月まで4か月分の給食費が支給されたということで、保護者の負担がないことについて、保護者の声は。」という質問について、教育長より、「物価が高騰する中、給食費の無償化で家計が助かった。」「本来保護者が負担すべき給食費を4か月も無償化していただき大変ありがたかった。」との声が寄せられております。子育て世帯の生活支援につながったものと考えております。一方で、病気やアレルギー対応など、特別な事情により給食が食べられないため、弁当を持参しているお子さんもいらっしゃるって、そのお子さんの保護者からは「給食を食べられる子どもと同様に弁当持参の分も支援いただきたい。」という御意見をいただいていたので、令和5年度9月～12月末の4か月間、昨年同様に予算が確保できていますので無償化いたします。併せて、弁当持参のお子さんに対しては、1か月分の給食費相当分をお支払いするという事で新たな施策を設けさせていただくというような考えで進めさせていただきます。」と御答弁いただきました。

「総合教育会議で子育て世帯の生活を支援する取組を協議する必要があるのではないか。」と市長と教育長に同時に質問がありました。

市長より「総合教育会議はその時々的重要な施策や案件について、議題としてきております。教育委員会と事前協議の中で検討して参ります。」と御答弁いただきました。

教育長から「具体的な協議事項は法律により定められた中で、その年にふさわしい事項を協議してございまして、子育て世帯の生活を支援する取組につきましては、その年の状況を考慮した上で、協議事項とするか、市長部局とともに検討してまいります。」と御答弁いただきました。

再質問ということで「朝里中学校の改築工事と長寿命化計画の見直しの時期」について、再度御質問をいただきました。

まず朝里中学校の改築工事につきましては先程お示ししたとおり「本年第3回定例会でお示しができるよう、検討を進めてまいりたいと考えております。」と御答弁いただきました。

長寿命化計画につきましては、「できるだけ早期にお示しをできるように取り組んでまいります。」と御答弁いただきました。

5ページになります。6月21日一般質問、みらいの小池議員から、「こどものスポーツ環

境について」ということで「中学校の部活動に拠点校方式を取り入れた理由、またどのように拠点校を決めたのか。」という御質問に対し、教育長から「市内全ての生徒がやりたいと思う部活動の選択肢が広がるのが最も大きな理由です。また決定方法につきましては、希望する部活動の生徒数の見通しや、指導が可能な教員又は部活動指導員の確保、部活動が行える施設環境などを確認した上で、校長会などの関係者と協議し、最適な学校を拠点校としたものであります。」と御答弁いただきました。

「拠点校方式に係る保護者や子どもの声」についての御質問に対し、「希望する部活動に入部できたことや、タクシーの移動支援により、平日も部活動が効率的に実施できることに対して感謝の声を頂いていると聞いております。また、本年度導入した種目以外に取り入れてほしいとの御要望を頂いている。」と御答弁いただきました。

「部活動改革推進事業費の内容」についての御質問に対し、「拠点校方式を実施するサッカー、陸上の2種目を対象に、5月から10月までの平日、週2日間、学校から部活動を行う拠点校まで移動するためのタクシーに係る費用」と御答弁いただきました。

6ページ目、6月21日一般質問、自民党の松岩議員から通学路に関係してということ御質問がありました。冒頭は市長への質問ですが、7ページ、「バス通学児童生徒に係る通学費助成事業について」ということで、「助成対象となる通学距離の考え方や計測方法について、また、通学距離のおおむねの程度について」の御質問に対し、「助成対象について、小学生は片道2km以上、中学生は片道3km以上を対象としており、対象者の自宅から学校の玄関までの最も合理的な経路で計測をしております。また要綱の中に記載しておりますおおむねの程度につきましては、自宅が隣接する児童生徒の一方だけが基準を満たさない場合などに、教育的配慮が行えるように規定したものであります。」と御答弁いただきました。

「バス通学費助成制度を利用した令和4年度の児童生徒数とその割合、この基準に満たず、自費でバス通学をしている児童生徒数について」の御質問に対し、「小学生が22人、中学生が160人で、小学生が0.6%、中学生が7.4%、自費でバス通学をした児童生徒数につきましては、市教委への届出を要していないため、把握をしておりません。」と御答弁いただきました。

「実施要項のただし書きで教育長が認める例外規定」についての御質問に対し、「身体的な理由など、バスを利用しなければ通学できない特別な理由がある事例に対応するためのものがございます。」と御答弁いただきました。

8ページ目「通学距離や計測方法の見直しにより、事業の在り方を再検討すべきと考えるが」という御質問に対し、「国の基準値は、小学生が片道4km以上、中学生が片道6km以上で、本市はそれぞれ2km以上、3km以上となっております。本市は、国が定める豪雪地帯の基準を適用しておりますことから、現状では、通学距離の見直しなどによって事業の在り方を再検討することは難しいものと考えておりますが、北海道都市教育委員会連絡協議会を通じて、道や国に対して、財政措置などについて要望してまいりたいと考えております。」と御答弁いただきました。

再質問で、「自費でバス通学をしている生徒数、児童数は、把握していないということでしたが、基準に満たないが例外的に認めてほしいとの要望があります。見直す必要はないということだったので、改めて見直す予定がないのか。」との御質問に対し、本答弁でも申し

上げた通り「国の基準を基に実施しているということで、国に対して財政措置等の要望をしてまいりたい。現状では、スクールバスも含めまして、北海道の地域性に応じた新たな補助制度の創設について、国に対して要望しているところがございますので、そういったことも行いながら、更に検討を進めてまいりたいというふうにも思います。」と御答弁いただきました。

9 ページ、ここからが予算特別委員会の内容になります。

立憲市民連合の高橋委員から「PCB廃棄物処理関係費用に関して、展示されている車両2両からPCBが見つかった経緯」について、「令和4年6月にJR北海道が、今回とは別の車両についてPCBの調査に来た際、今回の車両についてもPCBの可能性があると助言を受け確認した」と答弁しております。

「PCBの処理・工程」について、「一定程度の大きさに分割して内部の機器を取り出す。近く場所に分割したものを広げ、そこで取り出すことになっている。大型PCB機器以外にも数百点あるとされている未判明分のPCB含有の可能性のある機器があるので全てを取り出し、分析をする予定となっている。」と答弁しております。

「PCBのそのものの処理をするまでにかかる費用というふうに捉えたが、この予算の中でどこまでのことができるのか、そして、処理が終わった段階での車両というのは、どういった形状になっているのか。」について、「大型のPCB機器を取り出して、その取り出したものについては室蘭市のJESCOという処分業者まで運び出すまでの予算を計上している。また未判明分のPCB機器は、取り出して、そして分析を行うというところまでの予算を計上している。ただし、この未判明分のPCB機器は、実際に分解してみないと何個あって、どれぐらいあるのかが分からないので、この処理費用については、次の第3回定例会のときに、また改めて計上する予定。処理が終わったときの車両の状態について、現在想定しているのは、かなり分割された状態になっているというふうに考えている。」と答弁しております。

「車両の車体を処分するのか、あるいは再度組み直すのか。いくらぐらいかかるのか。」について、「再度組みなおすかは現段階では未確定で、今後の作業による。残せる部分については博物館資料保存、展示、活用する方向性」と答弁しております。

「総合博物館」について、「車両2両はどのぐらい貴重なものなのか。」について「ED75は小樽から滝川間が電化に先立ち1両だけ造られた試作機関車となっているため、平成22年にJR北海道より準鉄道記念物に指定されている。ED76は大量生産されたものだが、いずれも現存している車両としては数少ない貴重なもの」と答弁しております。

11 ページ、公明党の新井田委員から「部活動の拠点校方式について」、「今年からサッカー、陸上、茶道の部活で、各拠点における部活動が実施されているかと思うが、今後は、ほかの部活でも段階的に実施されていくのか。」について、「実施できる種目について検討していきたい。」と答弁しております。

「部活動指導者の募集」について、「基本的には応募していただいた方は全て任用しているというような状況で、過去3年では、令和3年度は8校で9名、4年度は7校で9名、今年度につきましては8校で13名の方を任用している。」と答弁しております。

「野球部について拠点校方式での可能性は。」ということで「今後、児童生徒に対してもア

ンケート調査を実施して、ニーズがあるかどうか、どれぐらいの方が入るかどうかというの
も確認を取っていききたい。また、全体の部活動の在り方として拠点校方式が採用できるかど
うかという中で、野球についても検討していききたい。」と答弁しております。

13ページ、共産党の高野委員より「図書館」について、「補正予算の中で、図書館費、子
ども読書支援事業費が計上されているが、これはどのように使われるのか。」ということで
「補正予算での子ども読書支援事業は、用途を指定した寄附で、2件は図書館から各小・中
学校へ巡回貸出しをするスクールライブラリー便のために、残る1件は、図書館の児童図書
充実と魅力的なコーナー作りのための書架及びスクールライブラリー便のためという指定
があり、いずれも子供の読書活動の推進や学習支援のための事業となる。」と答弁してお
ります。

「移動図書館のバスは、いつ頃から実施されているのか。」について「昭和49年7月から
実施。」と答弁しております。

「移動図書館は何冊ぐらい本を用意して巡回されているのか。巡回する時間や場所は、ど
ういったお知らせをしているのか。」について「約2,000冊積んで、現在33か所巡回し
ている。広報おたる、図書館だより、図書館ホームページ、月ごとには運行ダイヤの報道依
頼を行っている。」と答弁しております。

「3つのサービスセンターでの予約図書の受け取りサービス」について「読みたい本があ
れば御予約いただき、その本が準備でき次第、図書館バスで週1回サービスセンターに運び、
そこで予約された方が本を受け取るというサービスになっている。予約方法は、電話やFAX
のほか、ウェブでの予約。」と答弁しております。

「各サービスセンターの利用状況」について塩谷が他のサービスセンターよりもかなり少
ない状況となっております。

「まちなか図書館について、どのようなものなのか。」について「まちなか図書館に参加
したいという団体に対して、寄贈された図書を無償で提供し、おたるまちなか図書館として、
施設内での利用や市民に貸出しを行うという活動を行っている。」と答弁してお
ります。

現在16か所で開設されており、「なぜ増えたか。」について「図書館のロゴマークを掲示
して、本を転売しないことや管理・利用方法は、各参加施設に任せており仮に紛失したとし
ても、既に各施設に御提供したもので問題がなく、気軽に始められるということが理由
として考えている。」と答弁しております。

「まちなか図書館への支援」について、「私立の図書館の自主性を尊重して、ノーサポート、
ノーコントロールの原則が日本図書館協会の見解としてうたわれている。図書館法第26条
に国及び地方公共団体は、私立市立図書館の事業に干渉を加え、又は図書館を設置する法人
に対し補助金を交付してはならないとあり、金銭的な補助については考えていない。」と答
弁しております。

16ページ、公明党の白川委員より「ジュニア科学講座について、始まった経緯と目的」
について、「昭和38年に青少年科学館が開館したときから開講している。」

「ほかの講座との違いは。」について「博物館の他の講座は主に単発だが、ジュニア科学講
座は継続的だということが特徴となっており、今年度の場合は年間11回を継続的に受講す

ることを前提で年度当初に登録し、ほぼ月に1回、博物館に定期的に通っていただく。対象の設定も、通常のほかの講座は、小学生あるいは小学校4年生以上などとある程度広く設定しているが、学年に応じた実験実習を展開するため、ジュニア科学講座は、小学校4年生コース、小学校5・6年生コース、中学生コースとターゲットを絞った対象設定となっている。」と答弁しております。

「効果」について、「大学、研究機関、企業などの研究者になっている事例を多く見受けられる。」と答弁しております。

18ページ、公明党の白川委員より「体験型学習活動の推進について、どのようなことか。」について、「美術館では外部講師による親子で参加するワークショップなどを行っている。」と答弁しております。

「美術館は市営と民間で何施設あるか。」について、「市立が1か所、民間が6か所の計7か所」と答弁しております。

19ページ、「小学生以下は市内の美術館の入館料を全館無料にできないか。」について、「既に5か所が小・中学生を無料としていること、残り2か所の展示品が一般向けであることなどから、2か所の民間の美術館に対し、無料にしてもらうことは難しいものと考えている。」と答弁しております。

公明党の横尾委員より「新総合体育館のプール」について、「新総合体育館基本構想が令和5年2月に策定されましたが、その中で基本理念と基本方針の内容について、改めて確認したい。」について、基本理念は「誰もが集い未来へ続く健康拠点」。四つの基本方針は、方針1が、市民のスポーツ活動を推進し、健康寿命延伸に寄与する体育館。方針2が、気軽に市民が集い、多世代の交流を生み出す体育館。方針3が、防災機能を備えた、安全・安心な体育館。方針4が、環境に配慮し、将来を見据えた、持続可能な体育館。」と答弁しております。

「競技水準の向上というよりもどちらかというと健康づくりに対応できるものと考えられるが、どうか。」について、「コンセプトは市民の健康づくりに貢献することは重要視している。しかし、スポーツの振興、各競技の競技力向上は総合体育館建設の前提条件というふうに考えているので、スポーツ振興と健康増進という機能を併せ持つ施設という意味で我々は考えており、決してスポーツ振興の部分を切り捨てているという考えではない。」と答弁しております。

みらいの小池委員より「学校等における熱中症対策」について、「熱中症と見られる症状が出た場合、学校では基本的にどのような処置をしているのか。」について、「北海道教育委員会から発出された学校における熱中症対策の徹底について」という通知により、熱中症の緊急措置やフローチャートで示されている症状に応じて、涼しい場所への避難、休憩から救急車での医療機関への救急搬送まで、通知に基づいて、教職員間で情報を共有し、措置している。

また、教職員の対処法は、児童生徒の熱中症を防ぐために、熱中症が増加する季節に合わせて、各学校に熱中症対策の徹底や、より一層の充実を図るよう、具体例を示し、毎年繰り返し通知し、対処法について周知しているとともに、校内研修などにより、熱中症の共通理解を図っている。」と答弁しております。

「令和2年度に市議会議員の政務活動費を学校の冷風機などに購入に使ったが、その内容

と小・中学校における冷風機・扇風機などの設置状況を示せ。」について、「扇風機は、通常学級と特別支援学級それぞれ各2台です。特別教室は、小学校1校当たり5台、中学校1校当たり10台、スポットクーラーは各学校の保健室として29台を整備したところ。」と答弁し、「保健室にエアコンを整備する必要性、方向性について示せ。」について、「熱中症など体調が優れない児童生徒のために、令和2年度に保健室へスポットクーラーを設置したが、今後の学校改良工事に合わせ、検討していくことが必要である。」と答弁しております。

23ページ、自民党の松岩委員より「図書館の無料のWi-Fi整備について」で「必要性」について、市役所全体で検討させていただいた中で今回図書館に整備することになりました。併せてレピオの一部にも整備いたします。教育委員会としてはこの2か所ですが、進めることができたという状況です。

他の部分につきましては当資料を御確認いただいて、御質問があれば寄せていただきたいと思います。

以上でございます。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 よろしいですか。

それでは、本件を終了させていただきます。

時間が経過しましたので、今から10分間の休憩を取りたいと思います。

<10分休憩>

教育長 それでは会議を再開させていただきます。

その他の報告で、「寄附採納について」の説明をお願いします。

その他 寄附採納について

教育総務課長 寄附が3件ございましたので、御報告いたします。

1件目は、高坂啓子様から小樽市奨学資金基金に10万円を御寄贈いただきました。

高坂様からは、平成14年より御寄附をいただいております、5月に続き今回で38回目、総額は475万円となります。

2件目は、佐藤公一様、佐藤仁美様、佐藤雅之様から、100万円を教育環境の整備のためにいただきました。

佐藤様は御兄弟でお父様が会社創業50周年で寄附をなされておりましたが、そのお父様が亡くなったため、改めて子供たちへ寄附を行いたいとのことでした。

先ほど予算の中で説明をさせていただいた、窓用エアコンの設置の事業費の一部として活用しております。

3件目は、志和裕様から、小樽市交通災害遺児奨学資金基金に1万円を御寄贈いただきました。志和様からは平成12年より御寄附をいただいております、先月に引き続き今回で39回目、総額は44万円となります。

報告は以上です。

教育長 佐藤様御兄弟から、子ども達のために100万円の寄附をいただき、窓用エアコンの資金として使用させていただきます。高坂様、志和様については毎月のように御寄附をいただき、大切に使用させていただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「議案第2号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択理由書について」の説明をお願いします。

議案第2号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択理由書について

学校教育支援室主幹（生徒指導・特別支援担当） 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書の採択理由書について、説明させていただきます。

はじめに、議案の2ページ目を御覧ください。先ほど議案第1号において、種目ごとに、ここに記載している一覧の通り採択され、特別支援学級で使用する教科用図書について、当該学年の教科用図書を使用することが適当でない場合は、右記の(1)から(3)を使用できることが議決されましたので、御確認願います。

次のページを御覧ください。先ほど、委員の皆様から、採択の理由について御意見をいただきましたので、事務局でこのように整理させていただきました。

国語は光村図書で、採択理由は、系統性を重視し、前学年での学習内容が一覧となり記載されているため、児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

授業の流れがつかみやすく、「話すこと」「聞くこと」の領域なども、「問い」をもとに学習のねらいが示され、話す活動や聞く活動に取り組みやすさがあり、また、教材にも多様な要素が組み込まれており、児童に身に付けるべき力がつくよう工夫されている。

巻末に学年の振り返りが整理されており、児童自身が学習を振り返り、身に付いた力を確認して次学年の学習に取り組むことができるよう配慮されている。

国語書写は光村図書で、採択理由は、学習している場面を写真で示すことにより、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるよう工夫されている。

毛筆では、文字の大きさを正確に捉える工夫がされており、硬筆では、国語の教科書の内容が扱われているため、児童が関連付けて学習に取り組むことができるよう配慮されている。

擬音語を活用して筆遣いを直観的に理解するとともに、児童が楽しみながら文字に親しむ

よう工夫されており、各学年での学習内容を振り返り、日常への関わりを理解して、幅広い知識や教養を身に付け、日常に生かしていく態度を養うことができるよう工夫されている。

社会は教育出版で、採択理由は、学習内容に則して「見方・考え方」を提示しているため、学習の流れがつかみやすく、児童が授業の目的を確認しやすくなるとともに、学習内容に関連した人たちのインタビューが多く載せられており、課題解決型の学習に取り組みやすくなるよう工夫されている。

寒い地域の「雪害」やアイヌの文化など、北海道に関する内容が多く扱われるとともに、見開きのページを多用して見やすくなるよう配慮されている。

本市副読本「わたしたちの小樽」の内容に結び付け、ふるさと小樽をより深く学ぶことができる。

社会地図は帝国書院で、採択理由は、児童の興味・関心を高めるため、見方を変えると新たなものが見えることに気づかせるよう工夫されている。

字体が区別されるとともに、高低を表す色分けにより地形を立体的に感じ取ることができるよう工夫されている。

幅広いテーマに沿った地図を配置し、資料や写真と関連付けて社会的な見方や考え方を働かせるとともに、児童に親しみやすいイラストや絵の記号を付けたり、写真を多用したりするなど、地図表現と関連させた深い学びが実現できるよう工夫されている。

北海道が見開きで大きく示されているため見やすくなっており、アイヌに関する資料の充実など、情報量が多くなっている。

算数は教育出版で、採択理由は、児童の「はてな」からめあてを導き、「なるほど」と考えて、興味・関心を高め、児童が視覚的に理解しやすくなるよう工夫されている。

導入の段階が丁寧で、身近なことをテーマとして取り上げ、問いを生み出して学習課題につなげ、思考力・判断力・表現力等を高めるよう工夫されている。

巻末問題が充実しており、繰り返し学習することで、基礎基本を定着させてから次学年の学習につなげていくことができるよう工夫されている。

数直線に方眼をつけ、数量の関係を正確に捉えることができるよう工夫されている。

理科は東京書籍で、採択理由は、児童に興味・関心を持たせるような写真を掲載し、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されている。

複数の事象の写真を横に連続して並べ、差異点や共通点を基に、問題を見出す力や解決する力を身に付けることができるよう工夫されている。

「問題をつかもう」から「まとめ」までを1本のラインで結び、児童が見通しをもって学習し、知識を確実に習得できるよう工夫するとともに、巻頭の見開きで中学校理科の4分野と関連させ、学習内容を整理している。

単元の振り返りをイラストなどで行うことで、科学的概念を身に付けることができるよう工夫されている。

生活は東京書籍で、採択理由は、掲載されている写真によって、児童の好奇心が高まり、主体的に学習に向かうよう工夫されている。

児童がどんな学習をしていくのかイメージがつけやすく、イラストや写真を上手に活用して、意欲的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

「学校生活を楽しみましょう」として、体験的な学習につながる構成となっており、学校で勉強したことを家でも学ぶことができるよう工夫されている。また、「便利手帳」を活用して他教科との関連を図っている。

幼稚園以外から入学した児童についても、小1プロブレムへの配慮がされている。

音楽は教育出版で、採択理由は、「音楽のもと」では、音楽を構成する要素が整理され、学習に必要なものを示し、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

「学びナビ」では指導のポイントが明確に示され、個人差を埋めることができるように、基礎基本を重視している。

外国の音楽文化についても、多様な曲譜の音楽を扱い、児童が音楽に興味・関心をもつよう工夫されている。

児童にとって馴染みのある楽曲が多く、音階や音の強弱が聴き取りやすいため、音楽的な見方・考え方を育むよう配慮されている。

図画工作は日本文教出版で、採択理由は、マークで「学習のめあて」が提示され、児童が主体的に目標を見つけ、学習活動をイメージしやすくなるよう工夫されている。

「絵・かんじょう」などの記載があり、制作してから鑑賞するまでをまとめることで、学習活動の意味を明確にしている。

掲載されている写真が立体的で捉えやすく、作品を制作する活動では、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。

作業の様子や手順を示した写真が多く掲載され、児童が自ら考えて作業に取り組むよう工夫されている。

北海道に関連する資料として、アイヌの人たちのアットウシが掲載されている。

家庭は開隆堂で、採択理由は、各題材が「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つの学習過程に整理され、児童が主体的に考え、学習を進めることができるよう工夫されている。

図表や写真が見やすく整理され、調理や裁縫の実習では、作業の指示が具体的で明確であるとともに、子どもの事故防止にも配慮されている。

食材が英語表記され、他教科との関連が図られている。

キャリアインタビューが随所に掲載され、キャリア教育の視点からも活用できるよう配慮されている。

体育は東京書籍で、採択理由は、4つのステップを示し、児童が何をすればいいのかを明確にし、主体的な学習につなげていくことができるよう工夫されている。

資料が充実しており、健康に関する様々な内容の話が盛り込まれ、児童が健康について調べたり、話し合ったりする活動ができるようにするとともに、今日的な課題について解決する学習活動に取り組むことができる。

心の健康に関して、児童が自分事として捉えることができるように配慮するとともに、幅広い知識と教養を身につけ、健やかな身体を養うことができるよう工夫されている。

病原体やウイルス、細菌についての扱いについて、より分かりやすい表現となるよう配慮されている。

外国語は光村図書で、採択理由は、ゴールに向けての段階が示され、児童が授業の導入を確認しやすく、何ができるようになるのかを明確にして取り組むことができる。

「CAN-DO」で児童の学習到達目標が整理されて見通しをもつことができるとともに、ユニットごとに重点化する領域が設定され、学習の目標や流れが明確になり、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

単元のイラストを見ながら、英語を聞き、自分で話して、その上で書く活動ができるようになっており、児童の学習に向かう抵抗感が少なくなるよう配慮されている。

特別の教科道徳は光村図書で、採択理由は、学習内容が児童にとって考えやすく、教材を通して考えたことを実生活につなげ、自らの考えを掘り下げるとともに、現代的な課題と向き合うことで、道徳性を養うことができるよう工夫されている。

児童の心に深く問いかける問いが多くあり、多様な活動に取り組むことで、相手の考えを受け止めたり、自らの学びを深めたりすることができるよう配慮されている。

児童が自ら発想力を膨らまし、自らの考えを実生活で生かすために、子どもたちが考え、議論する力を伸ばしていくことができるよう工夫されている。

以上、採択理由書について、御審議のほどよろしくお願ひいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願ひします。

小澤委員 書写の記載のところで、「筆遣い」の「遣い」について、漢字がこれで正しいか気になってしまいました。現職のときに「筆遣い」と記載した際、担任の先生が教科書をもってきて「筆使い」と正された覚えがありました。自信がありませんが、後程確認していただければと思います。

学校教育支援室主幹（生徒指導・特別支援担当） はい、あとで精査します。

教育長 他にございますか。

黒田委員 私も自信がないですが、生活の「児童がどんな学習をしていくのかイメージがつけやすく」について、国語辞典で調べたのですが、イメージは「する」「沸く」とは言いますが、「つけやすい」というのはでてこないです。「イメージしやすい」ならわかるのですが、間違っているかもしれないですが確認お願ひします。

小澤委員 「イメージしやすい」が正しいと思います。

学校教育支援室主幹（生徒指導・特別支援担当） はい、こちらもあとで確認します。

教育長 他にございますか。

各委員 （なし）

教育長 それでは、御指摘のあった点を調べていただいて、修正等お願いします。
 よろしいでしょうか。
 本件を終了させていただきます。
 続きまして、「議案第3号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書採択結果の公表方法について」の説明をお願いします。

議案第3号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書採択結果の公表方法について

学校教育支援室主幹（学務担当） 「議案第3号 令和6年度使用小樽市小学校用教科用図書採択結果の公表方法について」御説明いたします。

 2枚目の資料を御覧ください。

 本書は、公表の方法、場所、期間及び時間、並びに公表する資料について示しております。

 1、公表の方法につきましては、閲覧方式とし、一部の資料につきましては、小樽市ホームページにおいても公開いたします。

 2、公表の場所につきましては、小樽市教育委員会庁舎1階の小樽市教科書センター及び市立小樽図書館の2箇所といたします。

 3、公表の期間につきましては、2箇所とも、明日、9月1日から9月15日までといたします。

 4、公開の時間につきましては、小樽市教科書センターは、土曜日及び日曜日を除き午前9時から午後5時まで、市立小樽図書館は休館日の月曜日を除き午前9時30分から、平日は午後7時まで、土曜日及び日曜日は午後5時までといたします。

 5、公表する資料につきましては、記載されております①から⑦といたします。①の採択経過は、議案第1号の最後のページにあります「採択経過」が、②の教科用図書は、今回採択した教科用図書の一覧と見本本が、③の採択理由は、議案第2号で決定した「採択理由書」がそれぞれ公表資料となります。

 公表資料等の複写につきましては、市立小樽図書館設置の硬貨投入式コピー機のみ可能とし、費用は請求者の負担といたします。

 また、9月1日から、小樽市ホームページにおいて、公表資料②教科用図書の一覧と、③採択理由書を掲載いたします。

 教育委員会議事録につきましても、後日、掲載いたします。

 以上、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 （なし）

教育長 よろしいでしょうか。
 それでは、このように進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本件を終了させていただきます。

それでは、ただ今から非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の皆様には御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

協議第1号 朝里中学校の改築について

施設管理課長から、「朝里中学校の改築について」説明し、全委員一致により協議した。

報告第2号 令和5年度標準学力調査結果報告について

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当）から、「令和5年度標準学力調査結果報告について」説明し、小澤委員から質問があったほか、全委員一致により了承した。

報告第3号 令和5年度全国学力・学習状況調査結果等について

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当）、「令和5年度全国学力・学習状況調査結果等について」説明し、小澤委員から意見があったほか、全委員一致により了承した。

報告第4号 令和5年度学習及び生活習慣に関するアンケートについて

学校教育支援室主幹（指導・特別支援担当）から、「令和5年度学習及び生活習慣に関するアンケートについて」説明し、黒田委員から質問・意見、小澤委員、荒田委員、常見委員から意見があったほか、全委員一致により了承した。

教育長 それでは、ただ今から人事案件の審議に入りますので、関係者以外の皆様は御退席をお願いいたします。

<部長／次長／室長／教育総務課長以外 退室>

議案第4号 職員の訓戒について

教育総務課長から、「職員の訓戒について」説明し、全委員一致により議決した。

<非公開の審議終了>

教育長 以上で、教育委員会第8回定例会を閉会いたします。

上記のとおり相違ないことを認め、ここに署名する。

令和 年 月 日

教育長

署名委員

調製職員（教育総務課総務係長）